

WORD

Little Press

vol.6

2011 MAR.

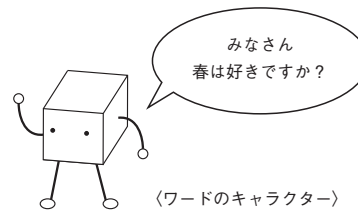
美しい景色を心のカメラにおさめよう

<http://word-tt.jp>

ご意見・ご感想を お願いします！

『ワードリトル・プレス』へのご意見・ご感想をお寄せください。
「もっとこんなふうにしたら、おもしろいのに」「こんな内容を掲載してほしい」「この記事に共感！」……どんなメッセージでも歓迎です！今後の制作の参考にさせていただきます。

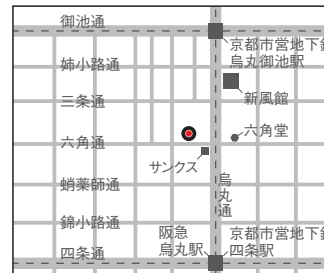
メール ✉ word@w5.dion.ne.jp
もしくは、**スタッフ**に直接お声かけください。



〈ワードのキャラクター〉
トコトンくん

京都オフィス

〒604-8164
京都市中京区六角室町東入骨屋町143
G&Gビル3F
TEL. 075(222)1104(代)
FAX. 075(256)5516
E-mail. word@w5.dion.ne.jp



東京オフィス

〒102-0082
東京都千代田区一番町4-5
ニューライフ一番町203
TEL. 03(3556)6160
FAX. 03(3556)1132
E-mail. word-tokyo@m7.dion.ne.jp



今号の発行が遅れましたことを深くお詫び申し上げます。深く反省しております…。

デザイナーズ川柳

すぺしゃる

◎陸月の川柳

ウサギ年なのにマウスがフル稼働

(評)

なかなかうまいなあと思いましたが、
これってネズミ年以外は
いつでも使えるパターンですよネ…

◎如月の川柳

八百長をチョコッとしてたらバレんたイン

(評)

チョコッとでころじゃ
なかつたですけどね…

◎弥生の川柳

掲示板 堪忍できんカンニング

(評)

テクノロジを駆使した
次世代カンニング。
たしかに手ぎわは見事でしたが…



どんと* ホメーイニング



1. 小沢一郎

去年の「いっちょカミ」路線はやくんべ。今年を心を入れ替えて、どんどんほめそやすことにしました。といっても、へそ曲がりの私のこと、世間がほめる人はマスコミに任せて、世間から袋叩きにある方々を励まし、世の中を少しでも明るくしたいなどとひそかに考えております。

というわけで、1回目は小沢一郎さん。言わずと知れた、民主党の元代表で、政権交代の立役者。あの風貌、クライトか、ワルそうとか言う人がいますが、とんでもない。がっしりとした頑丈そうなあごは意思の強さを表し、眠そうな厚いまぶたの奥には智謀がうかがえます。はにかんだような笑いからは、シャイでやさしそうな人柄が垣間見え、寡黙さは「男は黙って……」と

いう日本男児の典型。ペラペラと口は軽い
が、哲学も実行力のない最近の総理とはど
だい貫禄が違います。

「ネズミを捕らない白いネコより、ネズミを捕る黒いネコのほうがましだ」と言ったのは、中国を開放経済へ方向転換させた鄧小平です。けだし名言で、小沢さんが黒いネコだというつもりはありませんが、力のある政治家がトップになって改革しないと、日本はどうにもならないところまできているんじゃないですかね。もつとも、そうされては困る巨大な勢力が、総選挙前の党首と与党幹事長の小沢さんに権力を持たせないよう、検察の力を借りて潰しにかかったといえなくもありません。がんばれ、小沢一郎。

(H)

TOKYOの A 小ネタ!

vol.6

東京オフィス
(白)より

ワードが東京にオフィスを構えて9年目。
このコラムでは、東京のちょっとした小ネタを、
東京オフィスのスタッフがリレー形式で紹介しします。

東京は、全国各地から多くの人が
仕事や学校のため暮らしています。
交通の便がよくなったとはいえ、1
年に何度も地元へ帰れる人は少な
いのではないでしょうか。地元の言
葉、食べ物を懐かしむように、東京
にはいたるところに、各地方の物産
館やアンテナショップ、飲食店があ
ります。もちろん、旅気分でお店を
訪れる人もいるでしょうが、地元で
しか売っていないもの、食べられな
いものを求めて来店する人も多い
と思います。

先日、機会があつて行った、六本
木にある秋田料理のお店もその一
つ。私は秋田出身ではありませんが、
テレビで見たことのある「なまは
げ」が実際に見られるということで、
ウキウキしながら足を運びました。

店内は、「かまくら」に似せた個
室があり、店員さんの秋田弁を聞き、
名物料理に舌鼓を打つと、そこはも
うすっかり雪国・秋田。美味しい地
ビールも手伝って、フワフワしてい
ると、「ドンドコドコドコドコ ドンド
コドコドコ」と低い太鼓の音が……。
照明が消え、「うお〜」という恐ろ
しい声が聞こえた瞬間、「怠け者は
いねえがーっ!」と、赤鬼と青鬼



が順々に来て、杖や包丁(作り物)
を振り回します。子どもだましくら
いに思っていた我々は、悲鳴をあげ
るは、顔を隠すは、のお化け屋敷状
態。考えていたより、すごい迫力で、
なまはげが立ち去った後も、しばら
く呆然としていました。

あまりのことに写真が撮れず、
「どうしよう…」と思っていたら、
明るくなった店内を今度は接客し
て回るなまはげが、落ち着きをと
り戻して撮ったのがこの1枚です。話
すと優しく親切ななまはげにとま
どいを隠せない一同でした。

